

99春のファシリテーター養成講座

## Teachers' Effective Skills Training (TEST)

## 教育力向上講座

～「参加型総合学習」推進のために～

教員研修やERICの研修に参加された先生方から「子どもたちが人の話をきちんと聞けない、自分の伝えたいことをうまく表現できない」「けんかになったら一気に感情を爆発させるし、子どもどうしても力関係がはっきりしていて、弱い立場にいる子どもは何も言えない」という声が頻繁に聞かれます。「授業が成立しない」という悩みも、メディアをにぎわす特殊な例ではなくなっているというのが現状です。

このような状況は、なぜ起っているのでしょうか？ 根本的な原因について教育関係者が話し合い、分析する必要があるのではないのでしょうか？

ERICでは、10年間の研修や出版の体験から積み上げてきたものの集大成として、99春のファシリテーター養成講座を実施します。自分自身・子どもたち・学校で起っている現状分析から始め、子どもたちと一緒に、自分自身や学校を育て、グローバルな視点から総合的学習を推進するスキルの学びと応用の集中コースです。21世紀につなぐ新年度を迎える前に、日常から離れて仲間と共にじっくり自分自身をふりかえり、力づけるこの機会に、ぜひご一緒しませんか？ 多くの参加をお待ちしています！

開催日時：1999年 3月 26(金)～28(日)日 (2泊3日)

場所：国立婦人教育会館 埼玉県比企郡嵐山町

参加費：35,000円 全9セッション(宿泊費、研修費) 食費別

問い合わせ・申込先：ERIC研修部 加藤まで 直通TEL 03-3800-9415

## TEST 教育力向上講座 プログラムの3つの柱

- 自己理解** 自分自身のいいところも悪いところも含めて、自信と誇りをもって受け入れ、人に対しても攻撃的ではなく伝えられること。自尊感情、アサーティブネス、ホリスティックな自己受容、自己分析などの意識化を助けるスキルを学びます。
- コミュニケーション** 異質なものの接点に対立は生まれます。相手の感情により近い感情を体験する共感のコミュニケーションのスキルや、対立の場面での感情の扱い方、問題解決に役立つ視点などを学びます。
- コミュニティづくり** 家族・学校・地域・国・地球、わたしたち一人一人は様々なつながりの中に生きています。それぞれのコミュニティの課題をどう共有し、共生のコミュニティのための問題解決行動につなげていけるか学びます。

使用テキスト：「わたし・あなた・そしてみんな」「対立から学ぼう」「未来を学ぼう」  
「Let's Communicate!」「参加型で伝える12のものの見方・考え方」

## 一人ひとりの意識改革を未来につなぐ

「元気にしてたん?」「忙しいけど、元気、元気。そっちは?」「まあまあや。この間、スポーツセンターで同和教育の研修があったな。「権利のランキング」とか言うて、9つほどの中から、自分ならどの権利を最後まで捨てないか決めてから、グループで話し合ったんや。そしたら、若い人らとおかあちゃんらの世代とでは違うんやなー。これまで何回も同和研修受けてきたけど、今回はおもしろかったわ」

スポーツセンターの利用者が全員受けなければならぬことになっている研修でのことである。これまでも、自分より年下の女性が非識字である体験を聞いて憤ったことなどは聞いていたが、今回ほど生き生きと研修で学んだことを話す母は初めてだ。

「参加型学習はおもしろい」という。そして、世代によって考え方が違うこと、そのためになぜ「わたし」にとっては表現の自由こそが大切な権利なのだと思底思うのか、若い人に語るべき自分であることに気づいたことが、母に自信を持たせていた。彼女の生きた時代があればものない時代であったにもかかわらず、かえって若い人たちの方が、物質的な豊かさを上げていることは興味深い。そこからさらに、話がはずむ。

次に訪ねたときには、「アサーティブでなんやの。講師の先生が一方的に話しはったから、わからへんかったわ」と切り出した。前回の研修で、同和・人権教育が自分にもかかわる問題なのだという学習意欲を持って参加した母の失望があった。

一枚のレジュメを見せながら、「前半はいつも聞いている同和問題の歴史のことだから、ええねん。ここが知りたい」とわざわざ彼女が聞いたのが、「アサーティブな自己主張」のところに書かれた「わたしメッセージ」についてであった。

「わたしメッセージ」というのは、自分のいいところも悪いところも含めて、自信と誇りを持って受け入れ、人に伝えられることであり、「相手の事実の確認」「わたしの気持ち」「これからの提案」という段階を踏んだものの言い方である。例えば、娘の帰宅が遅くなったときに、「遅いやないの!もっとはよ帰っていで」と頭ごなしに言うのではなく、「どうしたん。何かあったん」と尋ねて言い分を聞いてから、「おかあちゃん、心配したんやで」「これ

「親が心配してるのはわかっていても、ほら、売り言葉に買い言葉で、頭ごなしに言われたら、がんと来るやろ」と説明したら、「子育ての時に知ってたら良かった」と涙ぐまれた。わたし自身の子育てのときには、自分の感情をはっきりと娘に言ってきたので、母に自分の気持ちを伝えられない歯がゆさがあったのだといままで気づけなかった。いやー、あんたは良くやってくれたよ。感謝しているよ。そんな泣きな。ごめん、気がつかなくて。

社会を変えて行くのは、このような一人ひとりの意識の変化だ。わが母のみならず、今年、参加型での人権教育の研修には確かな手応えがある。広がりや深まりがある。特に、ジェンダーの問題を追究する中で学んだ「ダブル・バインド=二重拘束」の概念は人権教育一般について大切だ。そして、そのことに気づかされたのも、彼女の「なぜ?」からだ。

「あんたを講師と呼ぶの、高いんやろ?」「家族割引にしといたる」運動として広めたいのだから、ただでも、とはいかないところが辛いところだ。儲けたいわけではないが、時間をかけているだけに食べていける保証が必要だし、そしてまた組織が運動を続けられる資金的基盤にも貢献しなければならない。それは、NPOに働くひとりひとりが胆に命じていなければならないことだ。自分ひとりが食べれば良いのではない。自分自身の発達と、組織の発展、そして社会の成長、それが一致させられるのがNPOに働くことの良さだろう。

この12月1日から、NPO法の実施にともなって法人登録の受け付けが始まった。ERICも規約を見直したりなど、登録の手続きを進めている。いまのNPO法では、十分な活動基盤の保証につながるとは言えない。これもジェンダーに学んだ言い方「女性(-女制という社会的役割期待)であるわたし、ではなく、わたしが女性である」に習って、「制度に合わせたわたしたちNPOの在り方、ではなく、わたしたちの在り方に合わせ、支援するNPO制度」を求めるプロセスは始まったばかりである。

(ERIC 事務局長 角田 尚子)

## 1999-2002年 ERICの提案1

### 社会的合意形成を求めて

人権尊重社会、男女共同参画型社会、持続可能な環境と社会と経済、高齢化、障害者や子どもも暮らしやすいユニバーサル・デザインを実現する町づくりなど、さまざまな問題提起に対してどのように対応していくか、いくつかの答えが見え始めた時代になってきています。

今求められているのは、具体的にはどのように実現すればよいのか、どのような行動計画にみんなが合意できるのかを考えるプロセスなのです。

ERIC国際理解教育センターでは、フューチャーサーチ会議の方法論に学びながら、社会合意形成をプロセスととらえ、そのプロセスを活性化するプロセス・ファシリテーターの育成を目指しています。

#### ○合意形成のためのプロセス

- ・過去の共有する  
年表づくり、過去と現在の対比表
- ・現状を分析する
- ・未来のビジョン
- ・共通基盤に根差した行動計画づくり

参考文献「フューチャー会議報告書」

## 環境教育指導者養成マニュアル（仮）

来春出版予定

地球環境基金の助成を受け、全国の環境教育推進状況と推進のための枠組み調査をベースにして、推進指導者を養成するためのマニュアルです。1月初旬には全都道府県に対するインタビュー調査が完了する予定です。

内容の構成は以下のようになりました。

- 第1部 環境教育推進のためのフューチャーサーチ
- 第2部 共通基盤整備の様々な参加型ノウハウ
  - ・過去の共有・現状の共有・情報の共有・未来の共有
  - ・行動計画づくり
- 第3部 環境教育とは何か
  - ・目標、内容、方法の共通理解・モデルプログラム
- 第4部 実践編
  - ・持続可能な社会的合意形成のために／市民参加のために必要なスキルの研修
  - ・持続可能な社会に向けた諸活動を推進するための組織の在り方

#### 緊急告知

都道府県の環境教育推進ご担当の皆様、インタビュー調査へのご協力ありがとうございました。

環境教育指導者養成マニュアルの出版にともない環境教育を推進されている方を対象に「環境教育推進担当者会議（仮称）」を4月頃開催する予定にしております。

この会議はフューチャーサーチの手法を用いて、参加される皆さん自身がこれからの環境教育のビジョンを築いてゆく機会となるでしょう。

## 1999-2002年 ERICの提案2

### コミュニティを育てる、コミュニティを育てる「わたし」を育てる

私たちが共に取り組めるのは、さまざまな問題を共に解決していこうとする「コミュニティ」を形成することではないでしょうか？そしてそのようなコミュニティに対する信頼と協力を育てることではないでしょうか？

ERIC国際理解教育センターでは、現在「新しい学習課題」と言われている環境保全、エネルギー問題、高齢化に対応するコミュニティづくりなどの問題にも共通するこれからの方向性としてコミュニティ意識を高めるということを提案しています。

そのための手法として参加型学習が重要視されてきています。コミュニケーションの活性化、社会的合意形成の必要性が高まるにつれて、参加型学習はその活躍の場を広げていくでしょう。

#### ○コミュニティ意識を高めるためのアクティビティ

- ・「コミュニティとわたし」関係分析
- ・コミュニティの課題分析
- ・コミュニティを育てる10ヶ条づくり
- ・コミュニティのこれから

参考文献「未来を学ぼう」

## Let's Communicate! ～わたしとコミュニティを育てる共感のコミュニケーション～

来春出版予定

「わたしたちが何かに耳を傾ける時、それが自分たち自身の内面の声であれ、お互い、他の人、南の国、生きているもの、沈黙に対してであれ、その耳を傾げるべきものの価値を認めているということになるのです。」（「未来を学ぼう」より）

いま、わたしたちに欠けているのは、「聞く姿勢」、聞くことによって自分自身が変化することの自覚ではないでしょうか。わたし編から始まって、あなた編、みんな編へと、からだ、内面の声、人間関係、世界、自然や環境にどのように耳を傾けることが、ひとりひとりの気づきに根差した共感のコミュニケーションにつながるものになるのかをこの本ではまとめています。

聞く姿勢のないコミュニティでの自己表現は誰の耳にも届きません。共生の未来を開く共感のコミュニケーションの基本を、ひとりひとりに、そして、家庭や学校、地域社会、地球社会などのコミュニティに育てるための自習書、指導書として活用できるものです。

聞くことは学ぶこと、学ぶことは育つこと、育つことは育ち合うこと、「学びが先行する社会」とは、ひとりひとりが基本になって学び合う社会を育てていくことなのです。本書はそのための手だてを系統的に積み上げた共生の未来のためのカリキュラムでもあります。

## セミナー案内

### 一橋大学 第2回地球市民講座 一般参加者募集!

一橋大学経済学部主催「地球市民講座」が、一般参加者も募集しています。毎回3時間のワークショップで、グローバルな課題とわたしたちの生活のつながりを考え知る新しいアクティビティが満載のプログラムです。

受講料は無料。詳しくはERICまでお問い合わせ下さい。

- 1/13 第4回 あなたの世界で世界地図  
1/20 第5回 環境・開発・ジェンダー  
～フェアな社会を求めて～  
1/27 第6回 できることからはじめよう  
～未来につながる行動計画～

\*時間は各回すべて13時～16時です。

申込み : 地球市民講座申込と明記、連絡先とともにFAXでお願いいたします。

FAX 03-3800-9410

問合わせ: ERIC 木野 TEL 03-3800-9416

### 第11回 グローバル・セミナー 開催予定 「国際理解教育推進のために」(仮称)

気づきのための練り上げられたアクティビティと築きのための参加型手法、この2つの点を組み合わせたものをERICでは参加型学習プログラムと呼んでいます。総合的な学習としての国際理解教育の時間を、ぜひ有効に使っていきましょう。

このセミナーでは今回のグローバルセミナーでは、これまで国際理解教育を実践されてきた人も、これから国際理解教育を始めようとする人も、より幅広いグローバルな視野から現在の教育に何が必要なのかという理念を共有し、そして具体的な実践計画を持って帰っていただきたいと考えています。

ともに学び、ともに国際理解教育を推進していきましょう。

開催予定日: 1999年 6月 26, 27日

\*国際理解教育推進実態調査を約350名の小、中、高教員の1人に対して行いました。アンケートにご協力くださった皆様、ありがとうございました。結果がまとまりましたらお送りいたします。

また、アンケートにご興味のある方はERICまでお問い合わせください。(研修部 加藤 TEL 03-3800-9415)

なお、締切に間に合わなかった方も受け付けますので是非お送りください。よろしく申し上げます。

### 新刊案内

#### NPO 運営マニュアル 来春出版予定

本書は、わたしたち自身とわたしたちの社会を変えるために活動してきたERICが、参加型の手法はわたしたちの組織にこそ必要な手法だったのではないかという気づきから生まれました。

このマニュアルには、組織の中のコミュニケーションを高めるだけでなく、それぞれの考え、思いを共有することで、新たなものを生み出していくノウハウがぎっちりつまっています。

内容は、参加した人々の力を引きだし、活動につなげる様々な手法を用いた会議の運営を9つのモジュールで段階的に提示したものです。

これはNPOに限らず、あらゆる組織の運営に関わる人々に読んでいただきたい一冊です。

- モジュール1. さあ、始めよう      モジュール2. 未来を共有する  
モジュール3. 中長期的目標      モジュール4. 組織の特性を知ろう  
モジュール5. 自分たちのリソースを知ろう      モジュール6. 組織の意思決定分析  
モジュール7. 組織のシステム分析      モジュール8. 事業分析  
モジュール9. 行動計画を立てよう

### ERICからのお知らせ

- ERIC事務所は、勝手ながら12月28日～1月3日まで冬期休業いたします。1月4日(月)より再開いたします。来年も宜しく願いいたします。

### ○アルバイト募集

書籍の発送、データの入力などを手伝って下さるかたを募集しております。アルバイトの方にはERICの書籍購入、セミナー参加について特典があります。

# ERIC

国際理解教育センター

書籍購入費・研修参加費用は下記のそれぞれの口座に振り込みをお願いします。

書籍専用      郵便振替      00160-3-547794      口座名称      ERIC

研修参加専用      郵便振替      00180-5-710774      口座名称      ERIC 事務局

ERIC通信No.12 年4回発行 発行責任者 角田尚子

〒114-0013 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビル      総合案内      03-3800-9414

研修部      03-3800-9415      出版部      03-3800-9416      FAX      03-3800-9410